

今回は、5月9日シリウスにて開催された、コミュニケーション講師の吉井奈々さんの講演を聞いて生徒の作文を掲載します。

3年生

今回の講演会や「いのち」についての課題など、改めて「いのち」について考えることができました。私が印象に残った言葉があります。それは、「自分を大切に生きる」です。人のために生きることも大切だと思うのですが、やはり、人のことばかり優先してしまっていると生きづらくなるんだなと思いました。嫌われたくないという気持ちは私も普段から持っていました。でも、今回の講演を聞いて、相手も自分も同じくらい大切に生きていたいなと思えました。もう1つ印象に残った言葉があります。「褒め、幸せの基準は自分で決めていい」という言葉です。これを聞いて、私は普段からあまり自分のことを褒められていなかったり、幸せな時間が思いつかなかったりしたので、これからは、人と比べず自分の幸せや褒めの基準を自分で決めて、毎日生きていて良かったと思えるようになりたいなと思いました。このように、講演や「いのちの課題」を通して聞いた言葉を忘れずに、生きづらいと思うことが少なくなるように生きていきたいと思いました。

2年生

今まで「自分の好き」を後回しにしていました。今まで「相手のために完璧」にしていました。学校で、たくさんほめられるから期待に応えないといけないと思っていました。その時、「出来るようになるのは難しい 心がけることが大切」という言葉を聞いて少し心が軽くなりました。それと同時に「自分の好き」も尊重出来ました。好きなこと、趣味は他の人の目を気にしてやるものではないと感じられました。私は、ある好きなものがある、それを「本当に好きでいいのかな、好きじゃない方がいいんじゃないか」とよく思っていました。でも、「自分の好きを大切にしよう」という言葉を聞いて、このまま、ありのまま好きでいいんだと思うことが出来ました。自分の好きなことをとことん好いて、幸せになっていい。人より劣っているところを見つけると辛かったです。運動が苦手で、自分より出来る人を見

ると「なんで自分^{じぶん}は出来^{でき}ないんだろう。才能^{さいのう}がないのかな。」と^{おも}っていました。
「人と違^{ちが}うことが 変^かわっていることが 才能^{さいのう}、魅力^{みりよく}」出来^{でき}ないことも才能^{さいのう}、魅力^{みりよく}
なのかも^{おも}と思^{おも}えました。私^{わたし}が耳^{みみ}にした時^{とき}、驚^{おどろ}いた言葉^{ことば}があります。それは「自分^{じぶん}
を大切^{たいせつ}にしてい^いい 人^{ひと}を愛^{あい}してい^いい 愛^{あい}されてい^いい 幸^{しあわ}せになっ^いてい^いい」という
言葉^{ことば}です。こんなに優^{やさ}しい、愛^{あい}に溢^{あふ}れた言葉^{ことば}を聞^きいて驚^{おどろ}き、感^{かん}動^{どう}の感^{かん}情^{じょう}が込^こみ上^あ
げてき^きました。これ^きを聞^きいた、私^{わたし}は、「自分^{じぶん}を大切^{たいせつ}にする！なんと思^{おも}われても、そ
の人^{ひと}を愛^{あい}す！愛^{あい}してくれ^いる人^{ひと}から愛^{あい}され^いる！ 幸^{しあわ}せに絶^ぜ対^{たい}なる！」と決^{けつ}意^いしまし^た。
相^あ手^ても自分^{じぶん}も同^{おな}じよう^{じょう}に、大切^{たいせつ}にしま^す。相^あ手^ての為^{ため}に自分^{じぶん}を傷^{きず}つけ^るよう^なこと^は
しま^{せん}。自分^{じぶん}を大切^{たいせつ}にすることは、大^{だい}事^じな命^{いのち} 1つを大切^{たいせつ}にするとい^うこと^だと
思^{おも}いま^す。「自分^{じぶん}」とい^う 1人^{ひとり}の人^{にん}間^{げん}の存^{そん}在^{ざい}の大^{たい}切^{せつ}さを心^{こころ}に刻^{きざ}んで、これ^これ^こら^らの生^{せい}活^{かつ}
を充^{じゅう}実^{じつ}させ、幸^{しあわ}せにな^りま^す。

1年生

私^{わたし}は、今^{こん}回^{かい}、吉^よ井^し奈^な々^なさんのお話^{はなし}を聞^きいて学^{まな}んだこと^を 2つ書^かきま^す。ま^ず 1つ
は自^じ信^{しん}を持^もつこと^は大^{たい}切^{せつ}なんだと改^{あらた}めて思^{おも}いま^す。私^{わたし}はよくネガティブに考^{かん}
えがちで自分^{じぶん}に自^じ信^{しん}がも^てま^{せん}。で^すが、お話^{はなし}を聞^きいた後^{あと}、私^{わたし}の考^{かん}えは少^{すこ}
変^かわりま^す。私^{わたし}の心^{こころ}に残^{のこ}った吉^よ井^しさん^の一^{ひと}言^{こと}「自分^{じぶん}に自^じ信^{しん}を持^もとう！」とい^う
言葉^{ことば}です。なん^だか^かその言葉^{ことば}は私^{わたし}に自^じ信^{しん}を与^{あた}えてくれ^ました。実^{じつ}際^{さい}、吉^よ井^しさん^の
実^{じつ}体^{たい}験^{げん}もふく^めたお話^{はなし}の中^{なか}で、吉^よ井^しさん^も「自分^{じぶん}のせいで・・・」とか「人^{ひと}と違^{ちが}
う」など^と自分^{じぶん}に自^じ信^{しん}がな^かった時^{とき}があ^った^みたい^です。で^も今^{いま}は、逆^{ぎやく}に私^{わたし}たち
に元^{げん}気^きをく^れるよ^うな存^{そん}在^{ざい}です。な^ので吉^よ井^しさん^はい^ろろ^ろな過^か去^こを乗^のり越^こえてきた
んだ^なと思^{おも}いま^す。だ^から、私^{わたし}は吉^よ井^しさん^みたい^に自分^{じぶん}に自^じ信^{しん}を持^もっ^てい^きたい
い^と思^{おも}いま^す。2つ目^めは「人^{ひと}と違^{ちが}って^もい^いい。自分^{じぶん}の個^こ性^{せい}があ^って^いい^い」とい^う
こと^です。「人^{ひと}と違^{ちが}うこと^はダ^メな^のか・・・」など^と考^{かん}えてしま^うこと^があ^りま^す。
「変^{へん}」と思^{おも}われてしま^うこと^が嫌^{いや}だから^です。で^も、吉^よ井^しさん^は「変^{へん}でも^いい」と
い^って^いま^す。これ^は、さ^きの^{はなし}話^{かん}けい^いに^かん^{けい}しま^すが、自分^{じぶん}のこ^とに自^じ信^{しん}を持^も
っ^て、個^こ性^{せい}を大^{たい}切^{せつ}にするとい^うこと^だと思^{おも}いま^す。な^ので私^{わたし}は、『自分^{じぶん}に自^じ信^{しん}を持^も
っ^て、個^こ性^{せい}を大^{たい}切^{せつ}にする』とい^うこの2つ^のこと^を大^{だい}事^じにし^てい^きたい^と思^{おも}いま^す。